

平成30年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果について

1 調査の概要

(1) 調査日時 平成30年7月5日(木)

(2) 調査の対象学年 (悉皆調査)

○小学校第5学年	1,283校	93,535名
○中学校第2学年	623校	71,128名

(3) 調査内容

① 教科に関する調査〔教科の内容・読み解く力〕
〔国語、社会、算数・数学、理科、英語〕

② 児童・生徒質問紙調査
学習や生活に関する意識や生活習慣など

③ 学校質問紙調査
指導方法に対する取組や学習環境、生活指導など

(4) 各教科の平均正答率と、習得目標値の問題数及び平均正答率

小学校	平均正答率	全問題数	習得目標値の問題	
			問題数	平均正答率
国語	66.5%	20問	7問	69.5%
社会	70.2%	22問	8問	70.5%
算数	53.8%	31問	10問	66.7%
理科	70.4%	20問	5問	71.2%

●習得目標値の問題：教科書の例題レベルの問題

中学校	平均正答率	全問題数	習得目標値の問題	
			問題数	平均正答率
国語	72.5%	25問	12問	75.0%
社会	60.3%	28問	9問	60.0%
数学	53.0%	28問	10問	59.9%
理科	52.5%	26問	6問	56.6%
英語	56.7%	26問	7問	62.0%

2 結果の概要

(1) 学力の定着が図られている問題例

◇小学校算数

次の計算をしましょう。
 $10 - 3 \times 2$

正答 4
正答率 88.6%

参考：平成25年度
正答率 78.2%

◇小学校理科

電気とじしゃくの性質を利用して、電気を通すか、じしゃくに引き付けられるかについて実験をしたところ、次の【実験の結果】のようになりました。板A、板B、板Cと素材との組み合わせとして最もふさわしいものを、下のアからエまでのの中から1つ選び、記号で答えましょう。

【実験の結果】

	電気	じしゃく
板A	通した。	引き付けられなかった。
板B	通した。	引き付けられた。
板C	通さなかった。	引き付けられなかった。

ア 板A：アルミニウム
板B：鉄
板C：プラスチック
イ 板A：鉄
板B：プラスチック
板C：アルミニウム
ウ 板A：プラスチック
板B：鉄
板C：アルミニウム
エ 板A：鉄
板B：アルミニウム
板C：プラスチック

正答 ア
正答率 71.0%

参考：平成23年度
正答率 52.4%

(2) 改善が図られつつある問題例

◇中学校英語

英文の流れに合うように、()内の語を並べ替えた順番として最も適切なものを、ア～エの中から1つ選び、記号で答えなさい。

お店で

A: I want a new T-shirt.

B: What (1 you 2 color 3 like 4 do)?

A: I like blue.

ア 4-1-3-2 イ 4-1-2-3 ウ 2-4-1-3 エ 2-1-4-3

正答 ウ
正答率 53.8%

参考：平成29年度
正答率 42.3%

○課題があり、経年で変化を見る必要のある問題については、全教科で改善が図られている。

(3) 定着が不十分な問題例

◇小学校国語

_____をつけた言葉がくわしく説明している部分を、あとのアからエまでのの中から一つ選び、記号で答えましょう。

昨年、上野動物園でパンダの赤ちゃんが生まれた。

ア 昨年 イ 上野動物園で ウ 赤ちゃんが エ 生まれた

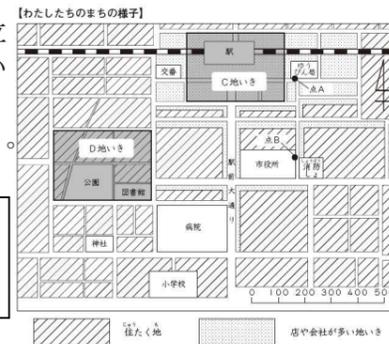
解答	ア	イ	ウ	エ	無解答
反応率	6.6%	22.4%	53.6%	14.3%	2.9%

◇小学校社会

交番から見た郵便局や小学校の位置を、次の【ノート】にまとめています。(①)と(②)に当てはまる方位を記号で答えましょう。

【ノート】

交番から見ると、郵便局は(①)にあり、小学校は(②)にあります。

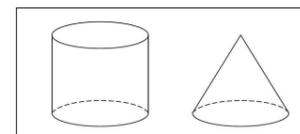


ア 東 イ 西
ウ 南 エ 北

解答	①ア②ウ	①をイ	②をエ
反応率	60.3%	15.4%	3.7%

◇中学校数学

底面積と高さがそれぞれ等しい円柱と円錐があります。このとき、円柱の体積は、円錐の体積の何倍になるか答えなさい。



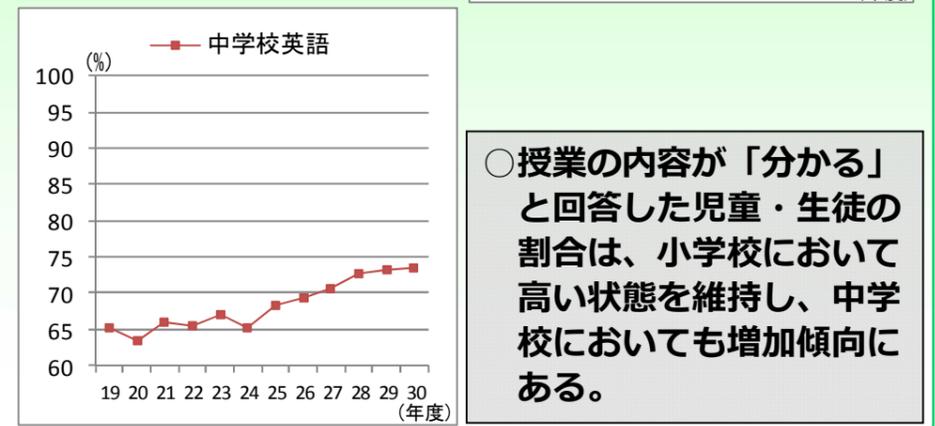
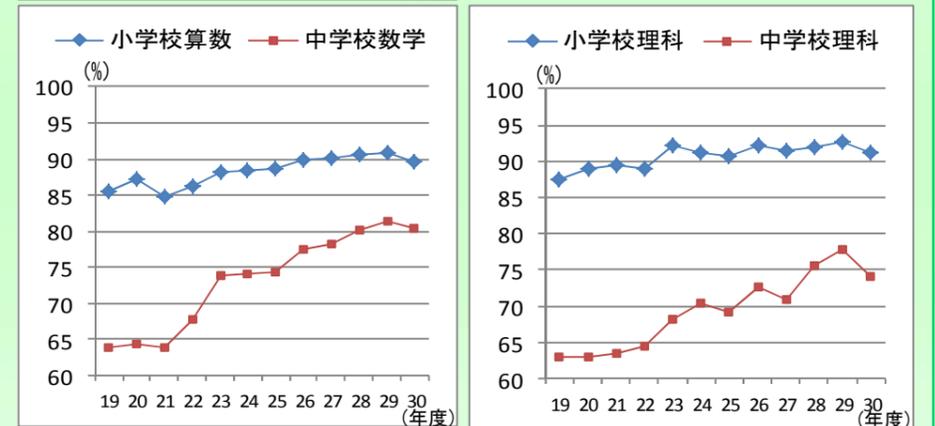
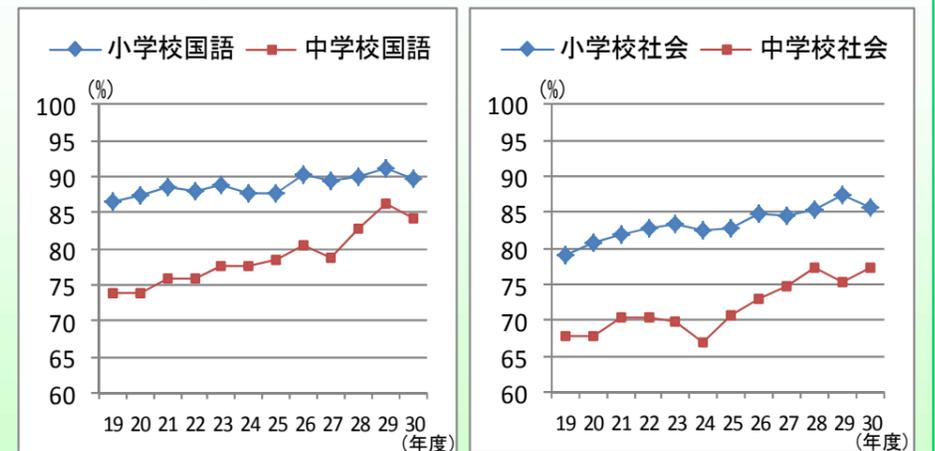
解答	3	2	$\frac{1}{3}$	その他	無解答
反応率	57.3%	20.8%	7.7%	9.0%	5.2%

○修飾と被修飾との関係や、文章から基準となるものを捉え、対象のものを表現することに課題。

(4) 授業内容の理解度—児童・生徒質問紙調査より—

◇「授業の内容はどのくらい分かりますか。」

「よく分かる」「どちらかといえば分かる」と回答した児童・生徒の割合



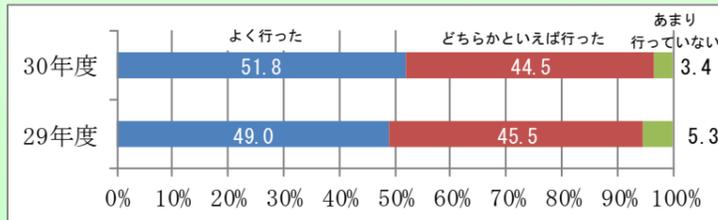
○授業の内容が「分かる」と回答した児童・生徒の割合は、小学校において高い状態を維持し、中学校においても増加傾向にある。

(5) 振り返る活動に関する質問の調査結果と平均正答率との関連—学校質問紙調査より—

◇「授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れた。」

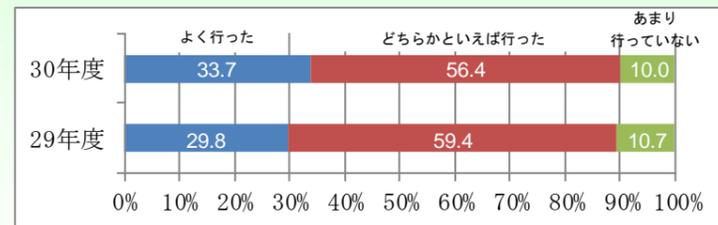
振り返る活動と平均正答率との関係	平均正答率 (%)			
	国語	社会	算数	理科
よく行った	65.4 (70.5)	69.7 (72.4)	52.7 (61.4)	70.0 (72.7)
どちらかといえば行った	66.0 (69.3)	69.3 (71.5)	52.7 (60.4)	69.6 (72.0)
あまり行っていない	60.5 (66.7)	63.7 (70.9)	45.7 (59.7)	63.8 (72.0)
「よく行った」と「あまり行っていない」の差	4.9 (3.8)	6.0 (1.5)	7.0 (1.7)	6.2 (0.7)

※ ()内は平成29年度の正答率



振り返る活動と平均正答率との関係	平均正答率 (%)				
	国語	社会	数学	理科	英語
よく行った	72.4 (73.5)	59.6 (56.8)	52.0 (55.1)	52.6 (56.6)	55.1 (66.4)
どちらかといえば行った	74.0 (72.9)	62.0 (56.1)	55.2 (52.7)	54.1 (56.8)	56.9 (64.2)
あまり行っていない	67.0 (72.2)	55.4 (55.3)	43.7 (51.5)	47.6 (56.2)	47.3 (65.3)
「よく行った」と「あまり行っていない」の差	5.4 (1.3)	4.2 (1.5)	8.3 (3.6)	5.0 (0.4)	7.8 (1.1)

※ ()内は平成29年度の正答率



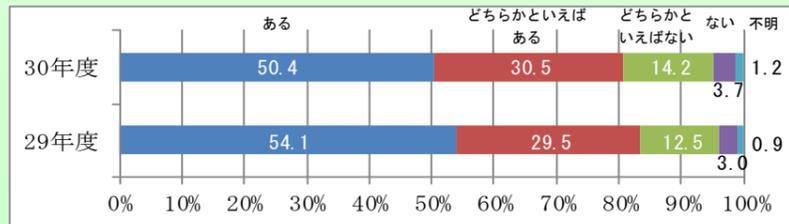
- 授業を振り返る活動について、肯定的な回答とそうでない回答をした学校の児童・生徒の正答率の差は拡大した。
- 肯定的な回答をした学校が増加した。

(6) 学習したことを発表する機会に関する質問の調査結果と平均正答率との関連—児童・生徒質問紙調査より—

◇「自分の考えを発表する機会がありますか。」

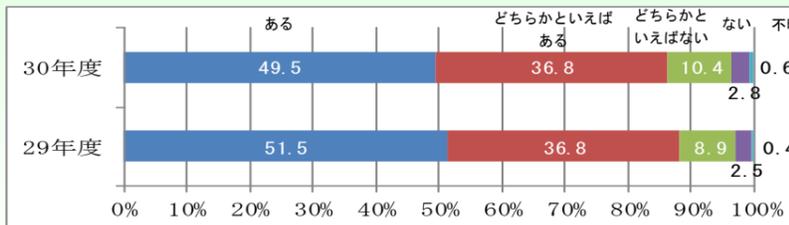
自分の考えを発表する機会と平均正答率との関係	平均正答率 (%)			
	国語	社会	算数	理科
ある	71.1 (74.4)	74.9 (76.5)	58.6 (65.9)	74.3 (76.3)
どちらかといえばある	63.0 (66.6)	66.7 (69.4)	49.5 (57.8)	67.6 (69.9)
どちらかといえばない	55.6 (60.2)	60.2 (62.3)	41.7 (50.6)	61.4 (64.3)
ない	52.9 (56.1)	55.0 (55.4)	38.3 (43.1)	57.9 (59.0)
「ある」と「ない」の差	18.2 (18.3)	19.9 (21.1)	20.3 (22.8)	16.4 (17.3)

※ ()内は平成29年度の正答率



自分の考えを発表する機会と平均正答率との関係	平均正答率 (%)				
	国語	社会	数学	理科	英語
ある	76.5 (76.0)	64.2 (58.9)	57.9 (56.8)	56.4 (59.2)	59.4 (68.4)
どちらかといえばある	72.6 (72.3)	60.2 (55.5)	52.3 (52.4)	52.7 (56.4)	54.6 (64.0)
どちらかといえばない	64.5 (64.9)	52.8 (49.2)	43.7 (43.9)	45.3 (48.3)	48.4 (56.2)
ない	56.9 (53.4)	45.8 (38.2)	35.6 (32.5)	40.5 (39.5)	41.4 (44.9)
「ある」と「ない」の差	19.6 (22.6)	18.4 (20.7)	22.3 (24.3)	15.9 (19.7)	18.0 (23.5)

※ ()内は平成29年度の正答率



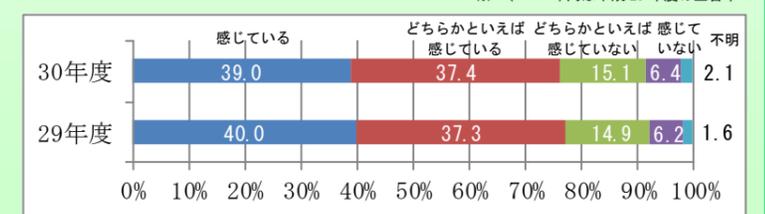
- 発表する機会についてより肯定的な回答をした児童・生徒ほど正答率が高い。肯定的な回答とそうでない回答をした児童・生徒の正答率の差は、昨年度とほぼ同様である。

(7) 自尊感情に関する質問の調査結果と平均正答率との関連—児童・生徒質問紙調査より—

◇「自分のことを大切な存在だと感じていますか。」

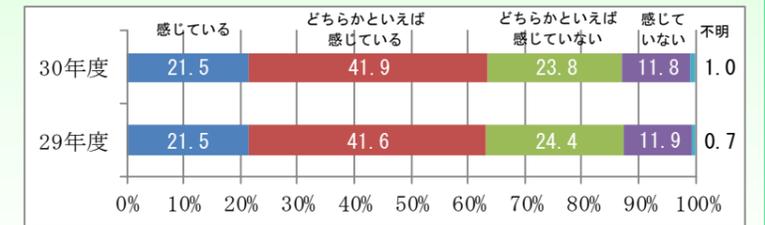
自尊感情と平均正答率との関係	平均正答率 (%)			
	国語	社会	算数	理科
感じている	66.5 (70.3)	70.4 (73.2)	53.8 (62.0)	70.2 (73.0)
どちらかといえば感じている	66.5 (70.6)	70.4 (72.7)	53.1 (61.6)	70.8 (73.0)
どちらかといえば感じていない	63.5 (68.4)	67.1 (70.0)	50.4 (58.9)	67.7 (71.4)
感じていない	63.6 (66.9)	66.5 (66.0)	50.7 (56.6)	67.3 (68.9)
「感じている」と「感じていない」の差	2.9 (3.4)	3.9 (7.2)	3.1 (5.4)	2.9 (4.1)

※ ()内は平成29年度の正答率



自尊感情と平均正答率との関係	平均正答率 (%)				
	国語	社会	数学	理科	英語
感じている	73.8 (74.2)	62.5 (57.9)	55.3 (55.9)	54.3 (58.2)	57.8 (67.6)
どちらかといえば感じている	74.1 (73.7)	62.4 (57.2)	55.4 (54.7)	54.6 (57.4)	57.6 (66.6)
どちらかといえば感じていない	72.9 (72.1)	59.9 (55.1)	52.5 (51.6)	52.7 (55.6)	54.4 (63.0)
感じていない	70.0 (71.0)	55.9 (52.8)	47.5 (48.5)	49.5 (54.1)	50.4 (59.4)
「感じている」と「感じていない」の差	3.8 (3.2)	6.6 (5.1)	7.8 (7.4)	4.8 (4.1)	7.4 (8.2)

※ ()内は平成29年度の正答率



- 自尊感情についてより肯定的な回答をした児童・生徒ほど正答率が高い。肯定的な回答とそうでない回答をした児童・生徒の正答率の差は、昨年度とほぼ同様である。

3 取組の方向性

- 知識・技能の確実な定着、思考力・判断力・表現力の一層の伸長を図るため、新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善を図る
- 単元や内容のまとまりの中で児童・生徒が自身の思考過程を振り返る活動を促進し、思考力・判断力・表現力の更なる充実を図る
- グループ活動において自他のよさを認め合う学習活動を促進し、主体的に学習に取り組む態度の育成を図る
- 家庭での学習や生活についてまとめた保護者向け「リーフレット」による情報を発信し、学校と家庭、地域との連携の充実を図る